

交通安全協会だより（令和3年10月号）

～ 夕暮れ時における交通事故防止 ～

夕暮れ時は、周囲の視界が徐々に悪くなり、自動車や自転車・歩行者などの発見がお互いに遅れたり、距離や速度が分かりにくくなるなど、交通事故が多くなる時間帯であることから、前照灯の早めの点灯や反射用品の活用等により

- 自らの存在を積極的に周囲に知らせる
- 早く危険を発見する

ことによって、夕暮れ時における交通事故の防止に努めましょう。

夕暮れ時における交通事故の特徴

○月別では12月が最も多い

夕暮れ時における月別の交通事故は、10月から12月かけて多くなっていますが、最も多く発生しているのは12月で最も少ない月の約2倍となっています。

○日没後1時間が多い

時間帯別の交通事故は、どの月も日没後1時間の時間帯が最も多く、特に10月から12月は他の時間帯に比べても多くなっています。

昨年の交通事故死者数においても、10時から12時、16時から18時が各4人で最多でした。

夕暮れ時の事故防止のポイント

○早めの前照灯の点灯を習慣づける

夕暮れ時の死亡事故は日没前よりも日没後に多く発生しています。これは日没後は急激に視界が悪くなり、車や自転車、歩行者も互いに相手の発見が遅れがちになることが大きな要因の一つとして考えられます。

特に前照灯を点灯していない車は相手から見落とされやすく、歩行者や自転車が車の接近に気づかず横断してくる危険性が高まりますから、日没後ではなく日没前から前照灯を点灯する習慣を付けましょう。

○前照灯はこまめに切り替える

上向きの前照灯は、下向きの前照灯よりも2倍以上遠くから歩行者や自転車を発見することができます。

交通量の多い市街地の道路や対向車や直前を走る車がある時以外は、できるだけ上向きに切り替えて、歩行者等の早めの発見に努めましょう。

○左右両側の歩道や路側帯に目を配る

夕暮れ時の交通事故は「自動車対歩行者」の事故が多く、その多くは横断中に発生しています。横断歩道に接近しているときはもちろんですが、そうでない場合でも、左右両側の歩道や路側帯によく目を配り、横断しそうな歩行者がいないかを意識し「探しに行く」運転を心がけましょう。

○横断歩道では歩行者優先を徹底する

横断歩道は歩行者優先であり、横断している歩行者や横断しようとしている歩行者がある場合は、一時停止などにより歩行者の通行を妨げないこと、横断しようとする歩行者が「いるか、いないか」明らかでない時は、横断歩道の手前で停止ができる速度で進行することが定められています。夕暮れ時は視界が悪いため、横断しようとする歩行者が「いるか、いないか」明らかでない場合が少なくありませんから、そのような時は減速して歩行者の有無をしっかりと確認しながら進行しましょう。

～ 夕暮れ時における前照灯の早めの点灯
自転車・歩行者は反射材用品の活用とライトの点灯 ～